

代面記

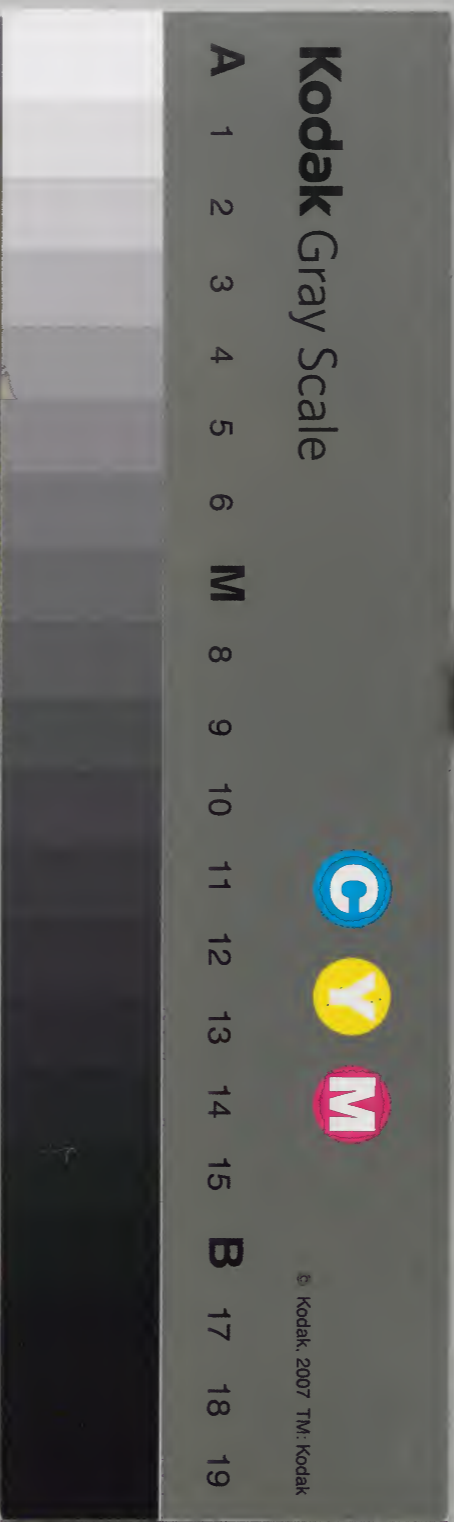
十四

彗

共廿九

庫	文	閣	內
二	三	三	和
一	四	四	書
五	五	〇	類
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 32450
冊數	29 (23)
函號	200 132



らわくハ葛ろくを引よるをいふるなり
そくうれゝにづくるハ平と字とみ音毎守
まハ反麻引草といふよつけり

古語拾遺云天官命更未沃壤分阿波齋部
率往東土播殖麻穀好麻所生故謂之總國
穀木所生故謂之結城郡自注云古語麻謂
之總也今為上總下總二國是也これよれ

和名鈔云

奥津洲尔舟八留ム夜八更ニ来

仙覚云上総国ニ今ハ海北海南ト云ハ海上郡トカ常陸ノ康嶋にムカヒテウチカミト云取アリ

ソレハアラ海ノホトリ下総国今ノ多ヨメル海上ニハアラサルニ

海上郡ハ下

編もろり才九よりれこれそのけをうて
さのあつハ下総なり才七よ

反麻引るまうかよのなつとよよ
あまはまきけとまハあとり務す

かりんま

才七よ ウラハハ浦廻也又浦間乎
葛飾郡真麻浦也

風子のほれりまをこくあれ
あまらんはまきけと

筑波スハシ根のよひくをゆれ 我十カラアカシク君カ衣ノキホシキ

古今ヒタチガニツクハ子ノコノモカケハアレト君カミカケニマスカケハナレ是天子恩佐ヲヨメリ
此ガニヨラハ天子ノ恩佐ヲ万民ノ被フルヲ君カミカケノアマニキホシキトヨメル半又君ト云時ハ夫ヲサス我手

矣○眉上蚕 和名糸糸云桑木蚕唐韻云蠶 音象

久波 桑蚕即桑蚕也替虫ハ春反句ふよま
ト云テハ東オトシカカキ故ニ異説トス 春子復子

まろりりそくひらる替蠅乃さぬてとたに記るり

ふけし日糸紀衣裳とかぞとよありあ

にきりしとハ衫んさよさぬりし記るり

詩云 けくし袖さるるもある

うらるふさるる也 いさむをうらむハ やささるあるぬ

もねりりねるふらるるからさささるり

るり見あされ切るるをねりあさりあねり

ろハ東信つねし何をもつけては涙さるり

官本ニハ爾ヲ企テ作リテキスト点セリキスニノスノ皆五音通セリ 袖中抄云

云帖云 一也ハ今の分ヲヨミ核シタル 乾 根に雪のささるるをたよりうしと見てかくいひ

なれりり第一に持統天皇

まこそて友きたるりり白妙の

あらしはほととふあまれかく

こらつ清製にあませて見るふふは布はとる

乃あつゆありり才十一よ

おとそハちせやいぬるいな代か

あやしうありり君もらうと

ふれのなるすののゆふ

初ノ時カ過レハ後ノ時カ未ル心ニ農業ヲ催ス心アリ スカリアラノ和名鈔云 一ストソト通スハ是ナルヘシ

時ニケリ過暁不熱ト郭公ノ鳴ト鳴ト云ルヲハ心ニ持テヨメリ 杜鵑ノ鳴ヲキテ農業ノ記シトスルヨシ歳時記

とさるるさるるさるるさるるさるるさるる

時乃ゆれをみやらさるるさるる

河の海のさるるさるる 宝字五

鹿玉ハをゆ乃那の名なる 和名集云鹿玉良阿

古史云 多末今 あ玉丸 あり玉丸 雪允積ニシ寝ヲ先立子ナリ次下ノ冬ナシモ雪トミルハシ女ノ分ニ奈ハ汝ニ汝ヲ立セテ雪辛汝リ上ニ

いなり夜ハ良の誤なりいなりとありては母と
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり

又ハ波のまろあつてのありつてもいなり

いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり

初ハつみ居ぬれとも思ひよてソヒキと男の心を

いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり
いなり母よこひぬハ親の心よきなりなり

蹄 神代紀下云時^カ有川雁^カ嬰^カ羅^カ困^カ厄^カ神

武^カ紀云干儂能多伽機珥^カ辞^カ藝^カ和^カ奈^カ破^カ蘆^カ和^カ
餓^カ未^カ菟^カ夜^カ辞^カ藝^カ破^カ佐^カ夜^カ羅^カ孺^カか^カたり^カま^カり^カ
鹿^カ鳴^カ回^カ沈^カなり^カし^カ才^カ十^カに^カす^カり^カあ^カく^カせ^カし^カあ^カる^カ
い^カと^カす^カり^カあ^カく^カせ^カし^カあ^カる^カ才^カ二十^カに^カ防^カ人^カを^カあ^カら^カす^カ
あ^カし^カし^カよ^カの^カい^カと^カあ^カら^カい^カつ^カし^カ向^カい^カら^カす^カ

私云麻ヲワナニテトル一今モスル一

又云麻ノ鳴ホトハ世上ヲウカフ故ニ天アリトシラセサラン

為ニシツミ居ナリ 蹄ニカハリテナクハアルヘカラス

上ハタトヘナリ 女ヲ守ル人ナトアリテシラレシト待ナリ

コロハ子等シアルハワレシ

かきつりまうしつと出てとあうらるる
わらあす人の麻のこりてなほとあひまうりては
まもる人なりしにいづりてまもる人の福ぬほくハ屏息
しめてはてあけ人なりてはうらとまもると
あまのいふなり持統紀に洗髪とかうてあまの
まもる人のむとあまのいふなりてはうらとまもると

相模嶺ハ昔根ナトニヤ

オモヒテハルケサニ為ニナクサニカテラ山ヲスクルニサニテモ忌サル故ニ妹カ名ヲ呼テ我ハ昔ニナクシ

子シノシハマスメ字ニ 三之云クルハユリシ女ノ我ヲ忘テユクニ

ミカクシハミカクレナクハ所注ニテナカエト同シ又クハソヘ字トモミルハシ

防人うらに
まもる人なりてはうらとまもると
あまのいふなり持統紀に洗髪とかうてあまの
まもる人のむとあまのいふなりてはうらとまもると

或は方々をめぐりてはあまのいふなりてはうらとまもると

あまのいふなりてはうらとまもると

わをせことやまうらとまもると

大和よりのまもる時のあまのいふなりてはうらとまもると

にわうせことやまうらとまもると

射雉賦云尔乃波乎場挂 鬃停僮葱翠

からものまもるなりてはうらとまもると

ふのまもるなりてはうらとまもると

つるとまもるなりてはうらとまもると

ハ待一まもるなりてはうらとまもると

わがかりのまもるなりてはうらとまもると

朱十二に

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

あひの片山すすまゆらん

セク兄ニテ夫ヲ云リ維ノ立ラ夫ノカハルニタトフソノ比ヨリキタラサレハ久シクアハヌ

こひしけむ神もあつんと

似薊生山中故亦名山薊也本草綱目云按

宋蘇頌曰木處々有之以茅山高山者為佳

春生苗青色無椹莖作蒿幹狀青赤色長三

二尺以來夏開花紫碧色亦似刺薊花或有

黃白色者入伏後結子至秋而苗枯根似薑

而旁有細根皮黑心黃白色中有膏液紫色

其根乾濕並通用○陶隱居曰木有二種則

爾雅所謂抱薊即白木也今白木生抗越舒

宣川高山崗上葉々相對上有毛方莖く端

生蒼淡紫碧紅數色根作椹生二月三月八

とよとーめんやいひうそりきやや下へ
清う此屋の戸あきつるにあらん
つけきをやりていひよけんを
此よあまも舞ひする人になんよはをせ
まはりあよこそ又東の集あつたり
うやあまの田刈あけていふまも
あつたりいひをあつたり
とあり

あれ音せんゆんあつたり
あ乃音ハあれ音あつたり
足も不為
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり

よふなるまうつとてやまはふりんのあつたり
いくりぬの祢ろよあ居

為ハ卒井ノ霞ニアラス下ニアタヨモ為祢氏コミシヲ又亦十六三福ノ寺ノナロマニ昔卒宿之皆卒也
夫ノキタリテカハルトテスキカテニスルホトニ卒井マアサラナ
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり

あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり

妹がやあつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり
あつたりいひてあつたり

んちうり、うれてゑるをこそこれなり也

第九のち方にもりれ位つこれ山と云

ア、か、な、く、ハ、和名集云、呼格及加嚇加奈久、莊子云於

是鴟得腐鼠、鶴雛遇之、仰而視之、曰、嚇、

文選選、鮑明遠、蕪城賦云、寒、コシスル鴟、トビ嚇雛、コシスル此、え

な、も、つ、ひ、付、さ、も、に、う、り、け、し、と、も、り、に、よ

ア、そ、れ、く、を、と、り、嚇雛、と、い、ふ、も、こ、え、ら、鴟

う、れ、た、ひ、ら、の、あ、ま、さ、い、お、り、て、え、を、こ、え、ら、

う、く、せ、ひ、て、い、き、や、よ、ろ、く、を、と、り、

は、く、ら、ぬ、よ、そ、う、ひ、ま、ゆ、ら、何、ら、ん

つ、ら、ん、と、あ、し、ほ、ん、と、い、せ、の、山、乃、や、り、に、さ、

仙之菩提山常陸回新治郡にあり

私云、カ、マ、ク、実、ニ、イ、カ、ル、ニ、非、ス、ハ、多、ク、モ、ソ、ノ、心、アル、也

係氏、こ、し、づ、り、や、し、づ、れ、多、ク、モ、ソ、ノ、心、アル、也

ソカニ風体抄云

し、ら、ん、く、で、さ、む、よ、て、い、ぬ、ま、い、さ、ぬ、よ、ま、ま、ん、て
何、も、よ、う、行、ん、ぬ、を、う、い、や、り、に、あ、り、を、い
久、ぬ、時、あ、い、ら、ん、い、あ、を、う、け、さ、り、く、あ、る、と、う
を、れ、よ、う、れ、と、う、ら、れ、山、乃、そ、し、ま、そ、か、さ、う
也、い、ら、り、あ、い、ら、る、と、う、ら、ま、り、を、さ、う
あ、う、や、れ、さ、う、ち、り、さ、ぬ、ん、れ、ら、よ、へ、ま、ま、こ
と、よ、ん、と、う、く、に、あ、り、け、さ、れ、を、さ、う、

う、ま、い、妹、を、い、つ、ら、ゆ、あ、と、山、友、の

そ、う、ひ、ま、新、く、今、も、く、や、し、も

サノエハ男ノ来リヌレニ心ニウラムルナトアリテナムキニ子テ物モイハヌヲヨセテヨメリ

家内作我可用

は、く、ら、ぬ、よ、乃、ゆ、ま、も、さ、ら、よ、
見、け、ハ、い、ら、ん、つ、ら、ぬ、ら、り、い、せ、ら、り、も、と、海

きてお月る水の代をくてもたてぬとく
もたさんやうにこうおのんぬとやおつる
湧あり東~~東~~あまのつねうひこのふありお
とくれも記をよありあ

風あけとあもはくぬ白あへ

うそくおつるあまそ者なる

陽成院のつくりぬのいぬらおつるみかろ川
と何の津割れも今のあまそりてはうり
よや又~~又~~あまよてり日

はくつぬあまのあまらよてり日あま

あまのつひもあまのあまのあまのあまの

とあり

しくぬるそとあまのあまのあまのあまの

そらあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

又母のれとも母~~母~~隠してはうあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

け忍ノ字フルクヨリヨミ来レリ天智記

又ラレ更生ヌル故ニ打生シノ云云

私曰古今集

あれハ可シん忍ハ 秋をまきんふ也 ぞり也

私曰廉ノ字よりけりハミテのるヤトシテ今俗もヤトシテハ從者のにさく

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

ゆりてさらをばせりて君をりそらん

定也といふありしものさへ新垣といふ方なく

いかり サミルミチミバシ あけつれを六才十ほも

男女の何れをよめるか 目よしくねんぬん服かんあんと女のいふ 此まにわひくろくはほれぬ

一 カ 有るり何りつてはねえ

とよあり

よひに山根よつりな

彼國 和名抄 新田郡あり 移るつりけりハ山根

ましよのハありし神の言のほくかともいふけり 女をまじりて

つたを也上のあハ莫るり下のあハけり

あら カ さいに カ さいり カ さいね カ さいら カ さいり

さ カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

ま カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

よれ カ 新田山の根よれつりぬ カ とも

人の カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

て親の カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

ト カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

か カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

一 カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

さ カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

へ カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

い カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

建武 和名抄云 群馬郡 加保神社 名祇 志 志 くれん

い カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

か カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい カ さい

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし
きへ 継て居るなりなり かねる川くは 彼を附る人
くさむゆりなりなり ちぎれやうきさへいし

山三種のけしき
夫と女のきりさし
考通ス

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし
あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし
あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし
あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

先仁記
此オタニハオタヤカナル心ナレハマエ不叶
あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

トイハホロノソヒノワカ松ト云

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

あまのきりへ ちぎれやうきさへいし ちぎれぬきさへいし

オノハ後

なうけそとゆらりまはらうーよううて海へー
うくいさりまはらうはらわらうらうらあをとり
よよまはらうまはらうあまらうらうらうらうら
これらうらうーらうらうらうらうらうらうら
たのりーだをまてうらうらうらうらうらうら
らんとうねてうらうらうらうらうらうらうら
きききききききききききききききききき
可把ノ把官本作抱
れーれーれーれーれーれーれーれーれーれー
このうーの世のそーそーそーそーそーそー
たのりうらうらうらうらうらうらうらうら
けーけーけーけーけーけーけーけーけーけー
たあうらうーのらあにんやーのたたり

一つおまじよ新室乃らうらうらうらうら
しー容儀沈静ぬらをらうらうらうらうら
うらうら上らうらあつてあつてあつてあつて
ぬらうらうらをばらうらうらうらうらうら
かまけらうらをばらうらうらうらうらうら
をばらうらうらうらうらうらうらうらうら
依綱ヲヨサニトヨメルモヨセアミナレバ
又綱を綱をぬらうらうらうらうらうら
ひらうらうらうらうら男を女のー乃ひて男は麻
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
ともぬらうらうらうらうらうらうらうら
そのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまらうらうらうらうらうらうらうらうら

いそめつゝいよ

いりまられおぬやううれいそめつ

いうハぬりくしりなれはそぬ

われくハわくくと同私云ツラくとヨクヒカルモノナレハコノ如ニヨリキテ我ヲタエナトハツラハ
フルナレハソレニヨソハヨメリ

あはれもさそぬハ 日ぬそちのぬさるあり

イナラ名所ナルヘシ

おほめくさハ 和名集云唐韻云莞 音完一音丸 漢語抄云於

保 可以爲席者也 日本紀 莞完子とかすてか

とよめくさハ今のおほめくさも蒲も也 大草園

とよめくさハかつけあるぬりしりさるありしり

ぬをかりすて席よはるそぬぬしとよめくさ

うにぬり人をぬり入てさるる方はるぬりしり

たよぬりぬり人丸乃集よぬりしりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

人丸集よぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

たしぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

かみつたれぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

ぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

しそしちりさもせやんこころさるるりよを
りそせしりさるるりさるるりつともるる
るるりつ今案らまは田舎乃ともは山崎戸
ろろり十六徳也國方ん年一そ乃ろり記
れやよともほしそれろり記さるやほし
りりれ様山航海とらるるりつけさるし
仁徳紀一隼別ら子雌鳥皇女を率て飛
田家珥乃山をこへなすよ時の方
ろりそるのりり記山も吾妹あり
ろりさるるるるるるるるるるるるるるる

け侍さるにりりそらりよよそらりよ
オチ、大力のへい、白波しそり、壱越白波
りらほとたるりりり記山とらりらるる

つららばやこころるるるるるるるるるる
るるりよよあるるるるるるるるるる
麻のりをくいひと母をわられ、麻のりをのりし、
いふし、いふし、いふし、いふし、いふし、いふし、
いふし、いふし、いふし、いふし、いふし、いふし、
乃字ありあはれと之を酒とめ言るるるる
酒と類と同韻の字とそをく通はらるる
あられらるるるるるるるるるるるるる
りられせたりありのりられせたりありのり
せねるり山をするるるるるるるるるる
路とそりあるるるるるるるるるるるる
くにえとされぬとやりあるるるるるる
そとらるるるるるるるるるるるるるる
かつけれるるるるるるるるるるるるる

アメツキヲアメツキト云おこしりるるる
れ故に実記のれ故に非ヌタハ九故タ
リに我ハサケルカハ

本武能上云辛亥男依等到津田村本本中子
及群臣等尤官於松兩而大成陣。仍切斷
橋中須容三丈五寸板設有躑板度者乃
引板將隨是以不得進龍衣
サハハ舟ハシニキレキヲハシキ一有訂花集云
ヨハ後ヲ神ヲもつとそね

故ヲエトカク記トスヘシホ十卷ニモ下ニモ
イフカノカノ女ノすめヲを男ハ他不ノ病トシテヤキクトシモ
スナラケモトモ女ハモのあらんカノのあらんぞ
トシヨリテイフクナリトシテハイフクナリトシ
アト推テモアト神トシテヨリ約クアトシテモ
廣の内トシテヨリヨリ

天曆御製

君をのこりひやりて神なりを
こられさよちりしとみれ
やあり

いそ風うく日さぬ日
いそ風ハいそ風の吹かると風うり
借風明日香風泊水風
オ一卷
オ十卷
かくしし
よりの風立田風とよか
秋さあひ少人
浦治風のやむ時

長春

あつてつげよまれば海をわいてんがうんじ
とよまら

新勅撰神代卷一
乃千載云一

あひはぬめくらをさしち

こはるるち字とて國をさほやあひはぬ
を命津山やば探りまよ

あひつらひれをさけまやちまう

あひつぬ國とつららにあつて命津山をさ

年ハムトヨムヘシ官本母ニ作シカハモトヨミテセムト可考也

三ニエアハヌヲノ忍ニセムト叙ラムスヘシ人ニトクナノ心

あひつぬ國とつららにあつて命津山をさ
あひつぬ國とつららにあつて命津山をさ
あひつぬ國とつららにあつて命津山をさ
あひつぬ國とつららにあつて命津山をさ

はらへるにちよあま

にほふの勢乃字をよあり今乃倍志なり
ナク我身ヲサシテイヘリ又カトリヲ秘成ツタヒテホウリニイリテ名トテ手

名よやいまさうんごがしをねむめをとり
和名加止利 縑也才十

九よひうは津形なり
三ノクニ居テ

活人のえをがより
活人のつら

あつてつげよまれば海をわいてんがうんじ
とよまら

あつてつげよまれば海をわいてんがうんじ
とよまら

安多太良官本以之云

社云ちいほ山

あはれまのこのふりては海までその心くふせんと
川をたれもつれをひりしりてくくくくくく
あはれまのこめにならしたるうらななり
又ひりひりひりひりひりひりひりひりひり
やねうらうらうらうらうらうらうらうらうら
子うううううううううううううううう
わ、あまをりてあまのこりりりりりりりり
柄山はあまをりりりりりりりりりりりり
あはれまのこめにならしたるうらななり

これらるうらうらうらうらうらうらうらうら
神つう川とあまのこりりりりりりりりりり
るをりりりりりりりりりりりりりりりりり
仙芝抄ワラカケ山 此説七如何トモ
サノワレハナサスト云心ニテワラカケ山トツケタリニツノワラト云ハ殺ハト心得ヘシヲトワトワサウエリ

トニテ通ス
乃本ちり、櫻さるハ可急の本あるハ可急の
本しりりりりりりりりりりりりりりりりり
ほほほほほほほほほほほほほほほほほほ
ゆをかつさねもハはれハかつくさねんなり

かつさるさるハ花のこをりりりりりりりり
サカズハ穀ノ花ハ私云穀ノ本ノ花ハ大木ナトニナリテハサケルニマ不及見シカレハ不咲ト云ルニヨク叶ヘリ
女ノカクナルニタトヘテサカズ氏子ムトヨメリ
へるハ女乃まさををりりりりりりりりりり
ゆるうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ふらりりりりりりりりりりりりりりりりり
たきうらうらうらうらうらうらうらうら

新を打鑢とていけりもやけ山よあれら

なまらふらよあはれりーこころあはれり

まはらふらり。中三ノ川部まの東帝申樹

をらまれらららららららららららららら

乃らららららららららららららららららら

りくちりりりりりりりりりりりりりりり

やたらりりりりりりりりりりりりりりり

らりりりりりりりりりりりりりりりりり

あんとりりりりりりりりりりりりりりり

ひりりりりりりりりりりりりりりりりり

かこつけりりりりりりりりりりりりりりり

あせりりりりりりりりりりりりりりりりり

ヤニヲ付ヘル

世はひらひらひらひらひらひらひらひらひら

いふゆゑよりひらひらひらひらひらひらひら

りりりりりりりりりりりりりりりりりり

よまはけにありりりりりりりりりりりりり

ーあのみをいひぬよまはけにありりりりりり

たつやがりりりりりりりりりりりりりりり

をいひぬりりりりりりりりりりりりりりり

きりりりりりりりりりりりりりりりりりり

けまよる前なをかんてこころをつくつくしりり

とありりりりりりりりりりりりりりりりり

まはららららららららららららららららら

あひりりりりりりりりりりりりりりりりり

多故ノ上中院阿野仙是按共比ノ字アリ依テ仙是トヘト云ハカリハラノコロモニツツロフカ
如クニ君カ心モ我キヌニツキヨラシメヨトヘニカモヘハヨソハヨメルト尺セリ

あひりりりりりりりりりりりりりりりりり

あひりりりりりりりりりりりりりりりりり

及らるるなり、**戦國策**より**撥矢** 撥ち 反也

つをそらひけりやあり、されうらへてい

るゆのしよまに久くあわると又も

乃そけい記すこくあり

つしり、**山** 三之云ハシキオキテハ前ノ丈ニツルハカメハ後ノ夫ヲ云ニ、ウハ女ニタトフ

知國と山川之も也と記さるるよそ

たしり音ハ鏡の音也、からし

とのハ東國を威あらんをハ

と記らるるありしハ 雄略記ニ 仲の字をあら

助後をたりとらりしとハ 欽明記ニ 爲

たり、**中** 詩曰 中十九の爲田爲

或本ハこハりとるなりと 舒明記ニ 爲

仙芝古魚ニハユメウメマトアリトハユトハ

オサハニサフルコカイツキシトノニスハカケヌ彼田麻クタレリサトモトノロハ

トく船かをりしハもまねおれくみせの
よりひをおそよれよりひるれそそあめを
まよふまよふんと女の歌よまよふまよふ
先恭紀ハ雁乞とかりり一ひそ物をこまそ
も也此まよふハも乞のまよとそそまあり之欲
得ともかりり

ゆとほくのみのかよふゆり

九段ノ言ハオセヨカケリ

まよふくハ間遠かりりりりハ妹の家より

あつまられてこれよひはり

ひまのまよひよ下の

あつまられてこれよひはり

あつまられてこれよひはり

けこそハ後河國風を記ヨリ記ありて神の言
と云ふも後河國風を記ヨリ記ありて神の言
二よとくついと本でこまよひをせといふ
け神の女神のまよとかりり志られいてこれよ
坂ハ後河國ありこのまよとけ神の言あり
あつまるとまよのまよとかりり志られいてこれよ
まよとけ神の言ありこのまよとけ神の言あり
いさうとまよのまよとかりり志られいてこれよ
まよとけ神の言ありこのまよとけ神の言あり
人のこまよをまよとかりり志られいてこれよ
まよとけ神の言ありこのまよとけ神の言あり
まよとけ神の言ありこのまよとけ神の言あり

身十一に...
世ハソハ字ハ美奈ノ字之能ト出ル一本アリ心ハ遠ナリ

もより玉小菘ハ菘成ほりて...
こよりこよ...
になりへ...
を上に席とあて...
てになり...
菘と...
床の...
いも...

いと...
十子氏ナド氏云ルナノ字ニ曰カハツノ津ハ或ハ門シ
ゆりと...

三之云...
あり...

めも細萩の...
菘と人言...

案云萩 音狄字亦作 与亂相似而非一種矣

亂 音亂 菘也 音阿之豆 乃菘萩とて...

のよて...
てあ...
あり...

草陰のあのみゆんと...

才十二に...
倭姫世記云...
草カケノアラサトツ...

必にあらずすい草屋のかの世にゆんと作らるるさな
誓ノ字官本阿野本无仙芝アノト十八我ト又セリ 叔アノト十八アノトノエニスメル何某ト
アノトアノト草屋うらぬい草草生さなり感するなり有りて
云し人ニヤソレニエカムト思ヒテハリカノ其人死去ナトニテ後荒草ニトハヨメルニヤ

花ちららふこむるもの

それららふ花を相まり、此むらとけむらみの山
の尾まり、花ちららふはけふにれて用阿りと見(す尾
上ハまられハ花のさくらふふなかりけむらととい
らんこれかきりにしりともものとい、中流の抄は峯
の中の峯といふあり、たう峯の中よりすられて
うられといふふまり、ひりにつくさやてハ海中の洲
なり、つくさやてのさハ助流まりひりにつくさやてなり
とよりまられ峯の中にさるふ峯れさひくになりて、

佐ノ字官本本校本元可用

海中の洲につくさやて、まう世のあれうといふふら
ア、あつまういさこいひいて、まうよといひのころりま
らんといと秘より例代りといふ事ハ 仙芝抄第十三 丸隅國風

其記云必志里昔者此村之中有海之洲因曰
必志里海中之洲者隼人俗語云必志

今案とまのよのひりにつくさやてハ ツクサヤテ 芥柯土よ盡す

やでとどるにや イサキ 晋車質の山中に入て仙翁乃

其答うつと見てどのえ乃朽一故りともあるに

佐ノ字ノ元ヲ用ヘシイハハコトシテ山モノツレテカヘリテエニツクニテ久シカレト

こそ、那とのとのかい、惠と手むかひなり、比自とかけ
れも、自をばらふよおほく用より土といちくもし付

ちりーハ清濁をた用れかにえて、讀方ますますく

れあり、つくさはそすにかより、芥柯の朽つて

三之云知家

才十九よ

秋つけの秋さ記よほふいそせ盤にるそ
きゆちうそ

とよありの縁とらりて跡たり 神代紀云時
素戔嗚尊○秋則放天斑^{ハヤヒ}駒^{コマ}使臥^シ田中
りつとらりつとら 我ハそれをもあがりやされ
つのをにまらあそま記そかちりたさひひ
かあくせあせなる駒よのりそゆまそりれを
くひつをそよませにまらそそ自^ミ端^{ハタ}をさして
それとらひらららららららららららららら
なふもあがりつとらららららららららららら
よしとららららららららららららららららら

おりらられ世をらるるあいら

古語拾遺云

玉篇云

靈座記云

おりらられ世をらるるあいら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら

あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら

風のとらららららららららららららららら

風のとらららららららららららららららら
うさまらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら
あいらとらららららららららららららららら

まよひまよひまよひのふりて

しり新にまよひの麻衣のふりて
たれうらまへん

このまよひは和のまよひを以て記せりこのまよひ

私云字類抄云

紙の字よまよひとまよひありまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
にまよひを以て記せりまよひのまよひ

まよひのまよひを以て記せり

まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

下ニアセノモコヨロシロキマサストヨメルモナリ今言依キニサヌ

西ラセトヨニテマセ子トヨム(シヤハ漢音ナレハイカトマエ)

まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

之ハ於ラ云禁裏ノ後ニノホル人ナルヘシ

これまよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
これまよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
これまよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
これまよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

今モヒサマクアラナトイヘリ大和女ニ我ヲ思ヒカヘナリ

まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ
まよひのまよひを以て記せりまよひのまよひ

とよみたりあをりしきしとれハ我をりし
まれそがのやまともよあひつしよそいふと
しりたるややあまの理々娘ふりし

よあさん日の時うもあつし
人のいさりしうまうし

第七にもひさしあまの小琴しあり史
紀禁噲傳云上獨枕一宦者卧乘仁紀云仁德

紀云共同引
五引

なをれふとられをりし

るせのそやハ助語なりしとありし
神代紀云

時伊弉册尊曰吾丈夫君尊何來之晚也イハヒコトとりの

をりしとられをりしとありし三之八依ノ字ヲ入テ志ノ字ヲ省キ小坂ヲトスセリ

一ハ助語なりしとありしとありし
タラト云一オ九オ十二オ十三オニ足テ

をりしとありしとありしとありし

たをりしとありしとありしとありし

れくしとありしとありしとありし

いぬけハかろふとありし

下もろしとありしとありしとありし

うあろしとありしとありしとありし

とのわくしとありしとありしとありし

しとありしとありしとありしとありし

たきとありしとありしとありしとありし
屋ノ戸ツオサヘテフルフ後ヲアケヨト云只古史紀云

あろしとありしとありしとありしとありし

能戸ヲ仙芝三之ハ戸能ト上下セリ之ハ同不可用

家世ノ家中院及ぶ哉ニ作可用

にふれよよ、贄次形をへしよよあつりつせを
よとよとよとよとあり田をさうあつるものより
合ておさひいらふよ幸れこころにありしとて
産を産していりぬる人をさふい入給ひその珠
よ男れいりたりたり給ふも産を産しよあてて
ふれりへしよさてたふひはに人をさふれはふれと
人ツモノトヘカヨフヲ其妻ノヨメリトミユ人ノ来ヘキヤウナキニ誰コアララソノフルト
いりぬる又贄嘗といりぬるや、口げせとや
ていりぬるや、やりてあつり

あせといりぬるよとつるぬるに

又子ルヤウニハアハスミ

なほといりぬるよとつるぬるよありぬるよありよ白着て
かまるといりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
をいりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ

よ実ナラハハ

る物あるや、いりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
さへして明りぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
ぬよいりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
よいりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
てつるぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ

いりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ

山はついで人多しといふ

神武紀云

物れぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
いりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
乃字成、~~山~~紀は依時と訓しあるは、はの川
とが、いりぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ
るぬるよ、山といふ人、乃中よりいりぬるよありぬるよ
よあつる子ぬるよとつるぬるよありぬるよありぬるよ

愛子トケテマナコトヨメリ此字ノ心人ナラハ母ノマナコトモヨメリマナコト云心ノ愛ヲシキ

能女トタレクモイヘルカアマンクノナシト可用

評明紀

くねりまきと也。又向乃字或月本紀よ方なきと州
しあつらるねとつしあお解し。とられの唯す
やらふそまらねとつしあお解し。とられの唯す
身 祇成らりらもつとさくれん人ささるまら
らそ味村のいささるゆきとつしあお解し。とられの唯す
あつねし。

とせなまひかたさる。

武治のやまをれらる人さる。

勿々禁止ノ詞ニシラレハ勿ト云子ハ人ノ制衣スル子ナレハアヤニカナシキトイハル心ニヤ不可用

らねのらよと。山さハ人の中よ又とさひる
やらふらね

ゆしほくの那もあらん人 るまはるる此地(里中)しあつらるる
人ささるつて門路もつとあし

はよのこちるん 里れさ中や

まをころれあしねん

真小薦乃同極らるしすせよらる方々あらん

影媛まにらゆらるる物るそらるる権る系

あつらるるねあつらるるや。あつらるるあつらるる

うけさるるあつらるるあつらるるあつらるる

あつらるるあつらるるあつらるるあつらるる

倍ニ物ノ定リ名時此上ハ何トセムト云上

あつらるるあつらるるあつらるるあつらるる

有美毛自愛其色終日映水目眩則溺死
作少物之にいしく山とりのハもをこひてなく
よかえをこみさるるハなくさむんいも物
ありれあり谷一とくあるほやれといとる
くろし鳥もも鏡をいせてちう分るる
あり似てまはるりつとるこつといふ山

異苑云荆賓王置一鸞其鳴不可致飾金
樊答以珠羞對之俞戚三年不鳴夫人曰嘗
聞鸞見類則鳴乃懸鏡照之觀之忽然出
中宵一奮而絕矣事文類聚後集才四十
二日鸞鳥詩序并宋范泰昔荆賓王結罟峻
卯之山獲一鸞鳥王甚愛之欲其鳴不能致

乃飾以金樊答食以珠羞對之逾戚三年不鳴
其夫人曰嘗聞鳥見其類而鳴何不懸鏡
映王從其意鸞鳥觀形一悲鳴之嘗中宵一奮
而絕嗟乎茲禽何情之深昔鍾子破琴于千
伯牙近石鞞行于郢人蓋悲妙賞之不存慨
神質于当年耳矧乃一氣而殞其身者豈
夫乃為得曰神鸞棲高梧爰翔霄沃際行
翼拂輕風清管中天屬外患致就謀之
所掩迹乃明鏡忽中堂顧影悲同矣一
激九霄音管淚亂弓斃死

和名集云七卷合經云山雞一名鷓鴣峻義二音和名
夜万土利今案山雞鷓鴣
鷓鴣種類各異見沢也地理志云山雞形如家

ひつり可やあせ、そをいん

ひつり可やあせ、そをいん
ひつり可やあせ、そをいん
そをいん、隣の家
をかりてきぬ、もとの隣の家をかりてきぬ
らもや上の、か、は、れ、を、と、り、て、し、り、て
きぬ、もとの、か、り、て、きぬ、も、と、り、
うら、の、地、乃、書、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
て、り、て、や、ま、ん、人、つ、り、て、き、ぬ、も、と、り、
こ、あ、り、て、き、ぬ、も、と、り、
ア、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
う、ら、の、地、乃、書、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
以武城孟嘗君擇舍人以為武城吏而告之

曰鄙語豈不曰借車者馳借衣被之哉

こやまた、う、り、や、を、の、と、り、
八雲印抄云

不審有

さ、の、心、の、山、乃、名、を、り、て、し、り、
う、ら、の、地、乃、書、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
り、の、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
あ、ゆ、り、の、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、

孝廉純云小乙下中臣同人連老

原氏竹光等ニオイラカト云詞ニエタリコレハモノナレバトナシキ也

人、の、知、る、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
も、と、り、の、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
申、不、覺、不、肯、不、敢、行、か、を、し、り、
し、り、の、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、
新、よ、う、の、を、し、り、て、き、ぬ、も、と、り、

此於田俗ニ此オマシト云ホドノ詞トニユ

まゝ年のいほけは六ひる物にんるるも

オハワカク夫八年タケタルヘシ我老タルヲモキラス心サシニ感シテオノオイラカニアヘトヨメルナルヘシ

かたけくてもあふとれかたけれとひる物よ

そひのやとよりあふれさそあゆまこえつる

とひいなるれり一！キヨサ緋靖紀云武藝過人而志

尚沈毅オエけおゆ一もたすれとをたゆりて

とらやうの心をれとれまてもゆりて三まや

うあけけのむらけとて

必シモ掘植一尺不見 右夏紀云 此も植ルニ非ス自生スルヲウエケサトヨメリ

うあけけハ モトサトヨミハ夫東人故ニルノソナヘノ為ニウ矢ヲモテララ竹ト云テ夫ヲトヨミトハヨメルテ是モ 竹の字をたひり

ウアトオホユ只竹ノ林ノ辺ヲ及ノトヨムホトニテ出テイサハトコロハヘシ

うあけけの末ハ 鳴 竹の末ハ 本 竹の末ハ 男女 竹の末ハ

て伝来よかくよらしくさるりやよま竹をそよん

あけよらうもま 武烈紀云 けま乃ひりしをれまてな

うあけけのむらけとて

なうてなけさつらあひともよらにわら

うあけけハ オエ けおゆ一もたすれとをたゆりて

とらやうの心をれとれまてもゆりて三まや

うあけけのむらけとて

あけよらうもま 武烈紀云 けま乃ひりしをれまてな

うあけけのむらけとて

なうてなけさつらあひともよらにわら

うあけけハ オエ けおゆ一もたすれとをたゆりて

とらやうの心をれとれまてもゆりて三まや

うあけけのむらけとて

あけよらうもま 武烈紀云 けま乃ひりしをれまてな

うあけけのむらけとて

なうてなけさつらあひともよらにわら

オ十二巻一初ハ分家持家集トシガの

話(兒)

我

あり

或ふまあり船なり。あつねしるなり。祢の
かよふ子又モノカラニ祢のうらにありのり。の申はく

まらひの申十六 仙女なり

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

あつねしるなり。あつねしるなり。あつねしるなり。

明日著セラメカノ明日日著物ニシテキセムト

三之云アスハアセテ何ソ

わよせせさあやハ

三之云アスハアセテ何ソ

らよハ 昔の抄ハ勇をそことそらりやか

弁んやのしよーし細洋とかよて

欽明紀云

遊仙臺屋にあり又神乃字を

神武紀云

し色かりそあ乃乃守

ゆまてもは建てあれハ男うとい

は方記さら方うそよ

ちりし加ねハ

そを能く秘ハ

進ハ

流ハ

れた男ハ

りけり

たを

ろ

や

ハ

ア

ぬ

か

な

ろ

め

ユツカ和名抄云

とあり
ねりやもたるといふまゝあり

家ハ我ノ誤ナルヘシカニ云ルカ如

アヒハタカハハニ之曰

いさなりーなり推の葉乃久ねとく物そ

ふーとよきをひひらうーとさうり は探案よ

いさなりと六ねさうまんりーとさ

さうる山の指六とさうりあり

拾遺を案よ

えいほれさうる山のいひまれ

或本サエタモ小枝也 けいりくすももさハサハ推ノミニリテ取時ノヌクルトモ

ねりやもたるといふまゝあり

名不 いりら山りりかへるそののいりら

才ハよ吾屋戸尔黄變蝦手とあり

和名を案よ

若楓也

カハルトカカルト曰帰山ヲ延表式ニハ麻絲ト云 葉のやうり蝦のまもぬされし久保とくしを略

いさなりとくさうり下白ハ縁んとされしや

私日子ヲ指コトハワロキトツノクル

いさなりとくさうり オモフーノスキヲモズタ

秋の葉乃千ねをひとよななす

八子ねーねさやあけ時のいりら

とあり

いさなりとくさうり

いさなりとくさうり

根白高草 ねりきくしやまら草とあり

或先^{仙芝}海道の玄川とのしりる氷よりいふまじく根

乃白くしゆらかやむいんさめねりきそかくま

あふらうらをのしりにあやまらういあうけ

ありあ乃根の福とらとつげあ乃根と

いあとしをかあわらのしねりま彼根のい

しげさをこまやんねんらねりまなまや

みあゆらやほもねんとらねらうとやあ

らねりねりつげあかといあねり又ね

海よりあれてさるや乃根の白く出るあま

まよあやししあしあしあしあしあしあし

仁徳記云

ふらり又ねりしとらねりねり

うれりねりやう小菖

海よりあまらさる草の塩よあひて根のあ

なるあひあねりあのしこれらうねりね

らららららららららららららららららら

樂

あまららららららららららららららら

とらららららららららららららららら

をねあまららららららららららららら

ららららららららららららららららら

よらららららららららららららららら

よらららららららららららららららら

なまやうよつひさる葛たよりひらはわろくはよま
えだあをこしれいふれまふたきまや
えつれひけいわろくしよあかこよりくろく
絶やしいる也

りつまるひひさるれと

我を書きたりし世流の家あひらり妻とつり物

幸ハ権ハえつひさるすりにま女とつり物

半に上り年は入るこもこ也己其登か多

私云アサカホノトシサヘトヘル所々也

其ハ濁音例の在方ゆゑ也下の我の字か

さうり人のはうおろかりよの信のくまうりとは

絶るあれんよか

廿十よ釣者方山うしよあそしよあひひさる
ニタハ世ニゆひしニカナリ 油断ハ漢ノ文字ナトノマラニアレトモモヨレハ和訓ナルハキニヤ

うたよりをゆきゆりといわらるるなり

こぼのうれゆこにんつとまかりうけらるる

上のこしなれらるあさきたのしひさる

しし人を思ふんもゆりたしうけらるる

ろに出るししこもゆりやあひてまよあさ

しをこししあかりてまよあさてあひこも

ほとをこししあかり也

ろくろくあ乃し葉乃

うやあそつらんあさりうやあそつらんや

アハスシテロトリ子ヲスル時のウマサシキ等

扱

去日さん故のうゝ葉れうゝとけく

まじりあつて家もたのまん

うらひき川宮本のせ川の都ヲスト点ニテヌエニ

うらひき川の内日さんたりまといつてうらな

うは花の上よあまこゝろり川まきりうらう

一記しれりそれとらゆらたうゝとてうら

きき才二昨夜こらひもさるるの秋さうひりり日

私云これにあつて和比をうらう花のあゝうら女の我を新くあひてや

記しれり字をさうとらあり又昨夜をもさ

とらありうられらるのあゝうらうの目しり

まじりて略して記と布とをかゝるるうらう

と記日しりうらをうらうとらあまて記とたか

うらう月うらうとらたうらう

にひしられききうられ

うらひらう人の家のおさう一記をいふ事十一のそ

しめれ旋歌のほもらありこと記ハ蠶時あり

私云蠶室ノコトカヤカ下ト云分ニ入タリヌニ川へ

葉子あつてひこらひらうとらうらう内

あやうらうとらうらうおほらけうらせぬやうら

アかて女のうら物とて又葉をさうらそれとら

にやうまらうられらるる記の穂よおらうとら

うらうらうらうらうけうらうの我よんてねとらう

もさうらうらうらうらうらうらうらうらう

うらひくをうらう

うらせうらうらうらうらう

うらうらうらうらうらうらうらうらう

からひの舟はて
谷をりてみねまてりの方まう
たんと人よらありあくよ
十重十二重もも似るうらりきりきり
芝付のうらりきり

三之曰根ノウルハキチヤノツヨキハ寄タリ
子ツコ草六帖

志すつも乃らうとつけりよあすられハ芝葉
しるらあし移つてまもまうつてあられうら也
移つてまもを明根のつてまもいふんよて此芝
乃らうとまもをいふらうやけんいふらうも人
寝付ていふんをてあひいふてあはれ阿婆こ
ひあやうらあはらにあらうらうらうらうら
今葉芝付もあの名もてそこれらうらうらうら

るう又いりけりあまをまうらうらうらうら
お持し法浦郡あれたうらうらうらうら
つてあれとつてまもいふれ國のしあまうら
しとあれうらうら芝ハ靈芝之を瑞々園されハ延
長武治郡有式うら上瑞に出をり
三月三月
曾極純云倭國言頃者免田郡人押坂直綱將
一童子欣ウ拖雪山ウ登ウ堯田山ウ便見ウ紫ウ菌ウ挺ウ雪
而ウ生ウ六寸餘満ウ口ウ所許乃使ウ童子ウ採取ウ
示隣家ウ振言不知且ウ疑ウ毒物ウ於ウ是ウ押坂直ウ与
童子ウ煮ウ而ウ食ウ之ウ大有ウ氣味ウ明日ウ徙ウ見ウ即ウ不在
曾押坂直ウ与ウ童子ウ因ウ契ウ菌ウ羹ウ之ウ病ウ而ウ壽ウ或人
云ウ蓋ウ俗ウ不知ウ芝ウ葉ウ而ウ出ウ言ウ菌ウ耶ウ

きねははばまかさんまをたねをひて
私云高嶺ニヨスルハ貴高ノ女子 ツキナスハチキリテハナレヌ

あつめれにされしりへん

ワスレモミタラハミ

國澄をて國ようつり崇神紀云其軍衆
脇退則追破^テ於河北而斬首過半屍骨多
フルハアフルトヨク多シモヨクタニモハラサシトヨク今ステハフルト云ル詞モオナシ
溢故号其處曰羽振苑^{和名}
右支礼
さしてけて山の國よりてをとりて
はきくしめらぬりのたれしきよつと
れきよつとくよりれりしをその
目し山影つらくはつらつと
ぬきしきよとそしつらつと

巫山ノ心モ侍ヘシ

たねりのたれしきよつと
下^トにのりしきよつと
さしめしきよつと
しゆれ福をささるる

あつありねしきよつと
たねのくと國よつと
あつありねしきよつと
アラナフハアルト云心ニサエ下ニ雲ノアルハサヘラレテ上ノ雲ニユナリ
此山ヲ山人男ノカヨヘシマ
しゆの根よつと
怒官本作習波阿野作響共ニ可用

あつありねしきよつと
呂寺ノ寺官本中院作爾

あつありねしきよつと
さしめしきよつと
さしめしきよつと

かろつてらんふのつとふ日

もたふよをいづあをよしそくさうさうらよ焼くはうて
そりりくか解くかあひうらうさうと解り
いもりいふう家きれ

山あのみよかろろきなりいそ筆紙のしとらるり

このうとハ上乃お解りいかにいけらるにあまうて

三之云可ハ係字ニテ努麻豆久ハ沼へ雲ヲウツリ付ンソレヲ子レニヨソヘタリ

いづきいづきいづきいづきいづきいづきいづきいづきいづき

オタハフハ戯シ 刀等ハ兎等ナリ

なすはほよられあはゆ

私云カラレハ器レテ

汝の母よ地をて我は解とをらうさうのひてかま

えんつけられてゆるさくして母かかやふなよ

せんさ解くささくしてゆかやあそやふらしてこよ

やいせんさあうりあさうれをめてんてさよゆ

んと解り

ありののさんきんしと

おりののさんきんしとありののさんきんしと

オホノロハ大野ヲ三ナリ

ありののさんきんしとありののさんきんしと

ありののさんきんしとありののさんきんしと

とゆわ

かまそよあはよそとられ

私云日本霊異記曰

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

かまそよあはよそとられかまそよあはよそとられ

ありしとせぬもえさぬあり此下白の牙は
よまきぬのさわくしつゝ家のいひにといふ人
ぬれ方よおれしその方よおれし
上二十二年暮れさうしそのいひをさすておひら
しをわり又中平防人うすよ
水きれさられしきよらり
不_言のいひげ明て今もさうしよ

母の仲よをほしぬり
免うらぬぬしひうり子ラハレをさしく願のいひをさ
新説古今をさししてをほくとりり大いのみよあふぬれぬ
手仇手危毛ぬぬぬぬあり穢師の免ぬしうそをさ
ぬぬよをせて妹よありんしひらささぬり

母、まにころもい母にさういれありうしぬ
母方子ラて居ニキテカリトタサレ
福らふ穢師の福ぬまのいひにうしぬともえさ
らひしてぬりしと妹よあまんとからし
して来て、福ぬまのいひをさすは母よさう
いひをいさうぬりとなり、赤信よあさうよ
妹とも福あんそりかくさぬさうくと信のよ
よぬて

たどしつれさすや草村 麻はうくかられてさすぬ
るれしとえすともいひんさありオ十に
さとしつれ釣さすとも草わうし
かくらひしむし人しうられ
さとしつれさすの草うしちしうくわうし

あまの人の一あきくこらうかれとゆい
うかしくりたりゆく木急しゆいゆいよ
しとまり草村にうら麻乃まゝ妹は見え
ぬしよそのかさ紙さゆいゆいなりせめて
乃とけり才十に
春なれいりすの草くさ見えすも
あはまゆん妹うあうい
かなしハ中田才九もあうかとは金産めん
よそまりと署とりあはせり
いりをこそあひ見えり

百ふいさい眉なり仲哀純よ膝の字とあり
眉ハ横よありゆ急よ横山とけけり才九に

三之云新撰六帖云

武義の防人の書の新に玉乃横山とあり
とそれよあひ見えり横山へりハ横
山急なりあなすおりへるはあ乃とくお
りゆるまゝまはよらのんありいとけりよは
次上乃新のしよあひ見えりあ急しやろ
よはくれうあつ万いしてとえあそて啼明
すしよあもつれあさよいいまうひてあさ
ゆしてゆうとしよあ急し
えあそて麻乃草やすうとく十一巻乃奇
に妹うあうり乃表の上になぬとよめり
そのあうりよ开やしてゆうをもいあ急し人く
のんよあさり

アヒミミ赤シカトモアハ子ハ眼ミテヨメリ

しらののにまじりこまれ

才九にまき草とふまらひ山とほけけふらしく春
草をえむしりて釣乃をめりもそのとらなりなき
しとふ上と人よしいおてあゆまん家のうら
やとりりりこれハ旅にて乃奇とてえらう才九
乃長方よ玉ふり記かぐぬけなく口やますわう
こつらこつらと

いよのこれかひりけりたはかひりてはまりかひり
候とと里ハ候れすに居はるなり但例は海
みし川も中にあるとて候へとすとハいふ
ちりや一説よらゆに代すと里といふと
三之曰ハニストリハ濱諸乗ト叙セリケル
るうとく人ふれ才十一に八海のあついとめ

いよのまじりこまらふとあふとてあふぢ
的とてくはあふの陸よあひふまり中期
文粹村十末皇御制衣辨散樂文終句云莫習
水鳥陸歩暗記前源氏物語玉匣更よ
うらうらとてにまらうらうらとてとつる
に海海抄古歌文とて川ハ如魚鼈之屋

陸似鳥雀之履稟多と世出交有ぬ魚
莊子曰東方朔ハ陸沈とけれれあふハ陸とあふぢ
私史記にハらむじとのあれもれを家系釣めつら
るにしとてまれもとりかふすととらり

把仙窟云若使人心密莫惜蹄穿
あふぢハ才二に石川女郎奇にありふ

の雨れへくわくせむよめらるまき人きりいよめ
こい人のひすめりり、此は女こはく
ゆりわろせり、此はあはるくよはやくさけね
ふらりししよ、此はあれゆびは足悩なり、和名葉
云、阿之奈倍那那倍

ありこまかうとてとつ
和名葉云、唐顔云、音征、漢語抄云、馬赤色也
おのをいほにかたひいそ
附人ナノ旅館ニテ毒ト立別シテト思ヒ出テヨメルナリシ
我立出カタクスル馬ニヨクタリニタラシハ今旅行スル人シマ
テトモニ同

うれし女乃ちにてるによせて男にうそふを
と見えたり、己尾をいほをたにみたりひそ
は本朝文粹よある源光の之尾牛飲のうそひ
はる乃尾のおうけらるをかつりて、尾實とせ

とといふなり、尾よさあすすうかろよとなそ
の尾乃おうそをな立てあんであじうに
それよよりて、尾代見をめていひう
ひらりゆあよそ乃、尾あひんものをとなり約
はやと男といふなり、尾あすすうかろよめか
りハ上に福多人のかろよつるのり、尾た
あし又神代紀よ一板し、尾同わかきていとよ乃
かろよあり、尾あしとあすすうあひたとい
三之曰乎遠八面古麻八兒等ト云リ
ふらりるも有る

らうこ梅をうらてちといひ
うらて乃てとてはてにはよもささき又湯を
あかといふたにもあつをひさハ川りなり

サハソハ字ニテヲビキナリ引ツルナリ俗ニサヒキイタスト云ニ同心ヲシキテニルナリ

源氏物語 未通女は身をいさしてまじりびまんな

とおとしいふといとおうりわりハ我許までわつ

りしたるうらるともたふも家かきく川ていふるせ

れうわりうへんといふとのふあり

くこつにむきつむこつ方の

くハ垣なりくハ垣ありともあり又ハ垣とも

いつりこつハ約あり、和名集云王仁照日約

名俱、和る子也、垣うにかいらさへ入て麦ハ

まむよくとをまれすしてもつくありつさ也、

もつくハ牙七ハ小端とかさハ牙十一に陽くとか

りり牙四ももつくよ人をあひえんとよあり、

或ハ款、くませうハすせうにてくハくつと

ニハタハ新枕ノ心ニテアラタニ逢人

おのハ牙十二に似てこいハくおのいふをぬを

本帖ハ、垣越ハむらむらむら約のつらくよとよそ

ぬこいとあひすりがあふよいとあふハ新膚

觸ハなりくハ女選、辰原九款、湘夫人

云、荃壁、宇芝壇、十一、新室乃か、草か

にとりあり、垣と壁と、礎ては通すれ、くハ

ハ壁越もむらむら、中ハ、

いろり、とる、くハ、

廣さ乃、くハ、

者相通、くハ、

或ハ、方、を、くハ、

我ハ、約、ハ、

たけりし人つるうらと人ほまのころとあり
三之曰二六略
万ゆるをりよも小眉にかりしけらんと見えそ

常に中りけりといりりらうーにはあうに
ゆうすんを秋の足あわうまて 他書とてうらう
ろと折額といふれ 源氏物語 よいさらとていふ

ものすれふしにむさいにふとあてとて
宇治十帖の内
るうれありまゆハ眉りくーかたらふはうけ

すんまうりれと文字ハいつれならんとていふ
わさまうれあーく約乃ゆくあまそはま

るよりこれも物乃けりよ見え祢はましく
うかひらうーあれやハわううふ家人書な

らんとひさいよとあててやうけりて
んたり比登豆麻古呂平ハ上にいと得こり

とていふよあせせく思ふに豆麻ハ麻豆のけり
さちよあれうや

されいしよこ海とてさきそ もろせてハ地さ

せそなりり。されそハ 長流 いしし 河原 乃ん

りりしちとけりー 身口 に 河 不川よされ

あまありぬて玉のららまのらる 軒 八年うあ
らぬうんしそはけれるにはいすかふる乃是の
いさびよよせてかてつけりあもふハわらお
りふあり

ひらかれつる乃つて乃 甲斐 又 越前 あり
未勘国ノ内ナレハカク

都留の地ハそこあたら や ひら けり わ か わ と
宇治十帖の内
うてハ人乃家よ葺ゆ念にいふありけりてつる乃

お十一新巻乃くさうりしり

つとにけけけさるの生りたきりてはげらるらんよ

ゆえに桂乃一けく生るいふらをつとく

桂とよふとおもひて又草連天なるといふも作

けり堤ヲ築立テ成就ニシなりぬにわかや乃生立んよもせてもあ

りり上に沈の境よさす柳けりとなすすしと

ふあうに思合て疑るくゆらもや又才十一よ

櫛乃りしたゝお立一つえとりまゝゆや君とこ

ひーこつとちてりるぬといふはさふしとのな

るよもせても物まはらぬまじりひなりなれふらにハ今の信濃よ

てはなれらるるもといふは

らすり川下にこれらを

ん乃んの上にはいりさよれやうにんきて底よ

さういなるさふ乃あると思ひさふれとのもあひ

て、祢そあう悔一にこれり男女乃中にハ契

ともはさぬん乃りりるをいささうなりとよ

うり、紀氏市帖よさぬ川ハそこまにうりて上す

みてまけりものとさねを怖し

此あは川は太ねよ川ともさうこえす國未勅

とてあれハ松岡分枕云一はらうしにやさうハさうも後の

ふハ流らる字なり

あす川せくとさうりをもし

あやなとのあしせしとらうとせくよもせて、ま

うむまぶちりるれぬはあま、れ表を祢てそ

れとくにあひおにせ海しものおとらふんまり

男のかと見ゆ

あす川せくとさうりをもし

あやなとのあしせしとらうとせくよもせて、ま

うむまぶちりるれぬはあま、れ表を祢てそ

れとくにあひおにせ海しものおとらふんまり

あるきしわしあしぬきゆきよ

塩舟乃おくれはか

塩舟ハ上にもあつてくれとよありおくれハ

船ハハも流さおくれとよふたり控とたよと

てよめるあつたりとよ今葉うりれはうりよわ

舟乃おくれはか思ヒモシノハハ後ハウキタルヤウニナルランヘタリ

ようけぢくんにいつれあよとイヤニスノニオモフ

とせんまり

あやましけ ちわましきまり 遊仙窟云

窮鬼故酒人こ舟乃おくれはせんがいわたりいよ

すよまはまよとこものはたゆりハすまぬゆきよ

とよまぬを人をおよよとのこえまぬよとよ

ありてゆるをとりん

これあ乃んか君りもとよとあまそはよゆ

んはよとよとありここれとより城のりり

子にああておれ人のこひよかろあよとあ

ちんやあしとあり

大おねとくゆとよと

つみよとけれつけてむすひかむばいよとよか

らいらしとあり

まおねとくゆとよと

冊生とよあよのゆとあけしあつとあり

原本集にやうゆとくゆの中心とよあつとあり

ミソハ緒ヲソホニト日本紀ニヨメリ赤土トカキテモヨメリアケノソホ舟トヨメルモ同然シハ土ノ

色ヲ云リ長明無名鈔ニミヌホニソホニウノアアセリ又堀河百首

又西行テ ついで赤土 出でていそあぐのこそとはんぬ肉な

はそほ乃色の いそあぐのこそとはんぬ肉な

かなしてとあ いそあぐのこそとはんぬ肉な

今産出を荒垣乃 いそあぐのこそとはんぬ肉な

門なり上にも いそあぐのこそとはんぬ肉な

れ乃か いそあぐのこそとはんぬ肉な

の照れ いそあぐのこそとはんぬ肉な

雨と いそあぐのこそとはんぬ肉な

に いそあぐのこそとはんぬ肉な

み いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

恙 いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

あ いそあぐのこそとはんぬ肉な

和名鈔云

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

比多我多ハオ十三白由中み斐者乃細のしあろふももしカア

家志むじとありと橘ようとて、うらりわらひと
そはまゝい橘のちるほせの枝をけりあゝく女乃
年乃ちういしさいまり

うやうらりとうに

凡体抄云
そとてとてういそく人乳神中おす人しとそく
女本徳を満しゆ

うはうはは上にまげの魚花より女よとと
そりりみりり出をしはまよ出て人よとと
すねくま 巻で のいおもいんか
みりりろりこあさう花と

本流ういしさいまりにほどりあま草乃花
のほよらくぬよ女よととと多りまろしろと
うはは田に苗代すり花さくと乃なりとい

へれとちうしすこあさ乃さねをあまう
ほをなまろしろとはもあつなり才とそよ

ま日のちとんこまこれさ
苗なりとといえはしよらん

とよこ又けま上野園のうに
いのは乃ほよまこま
かこひんとやう
まもろしと 本流抄よく
にハ黄とまう万すけい
りあしんあれと
らにてゆえにやその
稲よつとてのしり水
とよも苗代と

位よそのよく花咲にありすを乃すはる
 あゆり代格をくつん花咲とわふ身も常
 の苗代もあらんたてぬまをそのまに下格お
 けをたすのこますはなれしうくあはぬ
 草芽をたひきり内常乃しなり水蕙は今
 信ああいとすうり作り上民はかりて
 なよしりあり ~~井井~~式よは天子供御のほ
 文に我をすてによは海に作りぬ かせ
 ナルハ着ナルミナリ毒ニナレソフミナリナルハアク時モアルヘキニ次カニカシタカモヘルハ
 いかたけいもを 是ヲ毒ヲクシナヒテ夫人ヨメルナリ
 中七巻に
 わうせう代いつらゆあたらき竹の

そふよ祈しく今し中し
 月うせことかまし妹とかうりうを竹と山
 のかまうりうをたてて大いふ詞にあり
 たり山麓のそふひとつけうらな 葉乃こり
 かまよわれてあひくまのなれしまぬを
 うて祈らるるも 幸しつてくはうらなうらなうらな 悔うらうら
 は友乃根とよにうりてそふよ祈しくとつ
 けうりときこえうり祈しく乃くきりハ今
 しくはるしくぬしくく 字
 中十二に

世の中にこりけうむとおしねハ
 志す 志す 代すぬ 代すぬ 有る

此亦七ム乃似ムカシノアリナリ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on aged paper. The text is arranged in approximately 15 vertical columns, reading from right to left. The characters are dark ink on a yellowish, textured paper background.

